

## 米国社会とは

米大統領選はドナルド・トランプ氏の勝利で終わった。大方の予想を裏切った結果だったが、アメリカ社会がそもそもどんな社会なのか、多くの日本人は知らないのではないだろうか。その一端について、アメリカ社会に詳しい渡辺靖・慶応大教授に論考を寄せてもらい、森本あんり・国際基督教大学務副学長には語ってもらった。

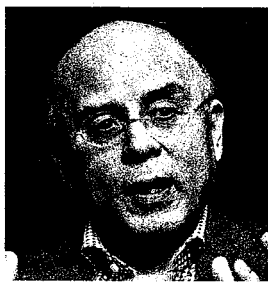
もりもと  
森本あんり

## 建国時の知恵機能せず

アメリカは建国以前から、聖職者中心の高度に知的な社会だった。そのため知性が権威と結びついて固定化することに反発する「反知性主義」の伝統が生まれた。トランプ氏を当選させたのは、まずはこの伝統的な反発力で現状打破を願う支持層だろう。

トランプ氏は、第7代大統領のアンドリュー・ジャクソンに似ている。ともに政治の素人で粗野で白人中心主義。観衆の喜ぶはったりをかますなど、劇場型の人気者でもある。

対するクリントン氏はエリートで既存の政治家タイ



1956年生まれ。国際基督教大学教授(哲学・宗教学)、2012年から現職。プリンストン神学大学で客員教授。著書に『反知性主義』『アメリカ・キリスト教史』など。

プ。知性が権威と結びついた典型的な存在だ。過去には専業主婦を軽視した発言もあり、非都市部では夫を差し置いて出しゃばる鼻持ちにならない女性と思われて年配白人女性に嫌われた。反知性主義は既得権益層を破壊して、新たな知や制度を生む時もある。ただ、現在は高度に専門化した官僚機構や軍組織があり、トランプ氏との間に危険なきしみが生じる恐れもある。選挙直後に渡米すると、

が返ってきた。たしかに、インテリが集まる東海岸と西海岸はクリントン氏が制した。だが、全アメリカの意思を決めるのは都会ではなく田舎である。こういう昔ながらのアメリカは、都会的に洗練されたファッショ誌「VOGUE」を読むむだけでは伝わってこない。

選挙戦ではいつも白人福音派が影響力を振るうが、今回は彼らの8割がトランプ氏に投票したという。女性関係が派手で人種差別的発言もするなど、とてもキリスト教的とは言えない人物だが、福音派の人々にとり現世で成功した彼は神の祝福を受けている人に見える。

弱く、正統派候補ではないトランプ氏やサンダース氏に振り回された。システム的にいつまでも老練にならないアメリカという国は、自分のことをまだよく理解できないのに太い腕を振り回す、怪力青年のようだ。ただ、希望はある。選挙後のニューヨークで見た反トランプデモでは、若者たちが歩道の人たち呼びかけながら進み、次第に膨らんでいったのが印象的で新鮮だった。トランプ氏を支持したのは、あくまでも年配者側の半分である。白人が牛耳っていたかつてのアメリカに逆戻りするわけではない。(聞き手・文化部 小林佑基)



多様でひとくくりにはできない米国社会。(右上から時計回りに) ポストン郊外にあるハーバード大のメモリアル・ホール、ワシントン近郊・ジョージタウンの住宅街、ニューヨークのタイムズスクエア、今年7月のクリブランドでの共和党大会開催中に起きたトランプ氏支持団体とデモ団体の間に起こった衝突

文化

論 & メディア